

JBCC、AI 駆動開発の推進体制を改編し「AI 戦略統括」を新設 「SI エージェント」の実運用に向け、大規模プロジェクトの実行力強化へ

IT サービス業の JBCC 株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：東上 征司、以下 JBCC）は、独自の AI 駆動開発の推進体制を改編し、「AI 戦略統括」と「AI 推進部」を新設しました。今夏から開発を進めている、システム開発（SI）を自律的に行う「SI エージェント*」の開発が進展したことを受け、実運用に向けた体制を強化したものです。新体制のもと、SI エージェントの大規模プロジェクトへの投入・展開を目指し、より高品質なシステムの提供と、それによる顧客企業の経営変革を支援します。

*SI エージェント：開発の各工程を自律的に行う個々の AI エージェントの集まり（エージェント群）を指します

■ SI エージェントの開発状況：上流工程で熟練開発者と同レベルの項目・粒度の成果物生成に成功

JBCC グループは、基幹システムの開発期間の短縮と品質の高さを両立する独自の開発手法「JB アジャイル」を AI でさらに進化させ、より多くの顧客の変革を支援することを目指しています。その一環として、AI スタートアップ企業のスパイスコート株式会社と業務提携し、システム開発を上流から推進する「SI エージェント」の共同開発を進めています。

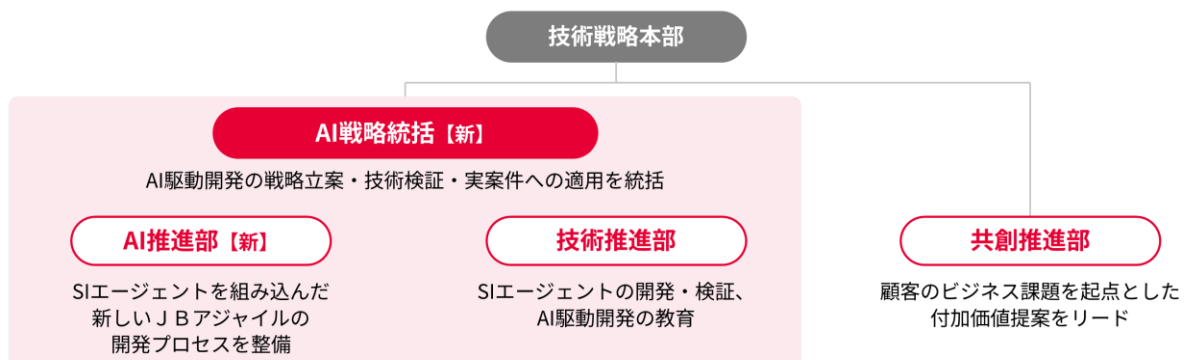
現段階で、現状分析・構想策定・要件定義からなるシステム開発の上流工程において、実際のプロジェクトで作成する一連の成果物を、熟練開発者と同レベルの項目と粒度で生成することに成功しています。今後は、エンジニアが経験の中で培ってきたノウハウや、実際のプロジェクトで得られる業界・業務の知識を SI エージェントに取り込み、実案件でも活用しながら精度を高めていきます。

■ 新体制：3 つの推進部が連動し、技術検証から顧客への価値提供までを一体で推進

SI 事業部では、2025 年に技術戦略本部を立ち上げるなど、JB アジャイルを AI 駆動に進化させるための組織強化を行ってきました。このたび、SI エージェントの開発が進展したことを踏まえ、同本部内に「AI 戦略統括」と「AI 推進部」を新設し、既存の「技術推進部」と併せて統括の傘下に置きました。

「AI 戦略統括」には、大規模な基幹システム開発のプロジェクトマネジャー（PM）を歴任した本部長級の人材を配置します。「AI 推進部」には顧客のシステム開発を最前線で担ってきた JB アジャイルのエキスパート陣を置いて新しい開発プロセスを整え、並行して「技術推進部」が SI エージェントの技術検証を進めます。その成果を、顧客理解・ビジネス理解を強みとする「共創推進部」が、顧客への価値提案につなげます。

3 つの推進部が連動し、独自の AI 駆動開発の確立から顧客への提供までを一体で推進するとともに、新しい開発手法を SI 事業部全体に広げ、AI 駆動開発の担い手を増やします。また、組織全体として顧客の課題を起点に活動し、システムの構想や開発、運用を顧客と共に進める、いわゆる「FDE（Forward Deployed Engineer）」型の支援を推進します。



■ SI エージェントで目指す開発：熟練者の経験頼みから、AI が知見を引き継ぐ開発へ

IT 人材の不足が深刻化する中、多くの企業では、開発担当者の退職や長年の増改築による複雑化によって、自社システムの全体像を把握することが難しいといった課題を抱えています。こうしてブラックボックス化したシステムは、改修や刷新に多くの時間と労力を要するため、ビジネス環境の変化に対応することが難しく、企業の迅速な事業変革を妨げる要因となっています。

ブラックボックス化したシステムを刷新するには、まず既存システムや業務の実態を正しく把握する必要があります。しかし、その作業は熟練開発者の経験に頼る部分が大きく、多くの時間を要するうえ、得られた知見も個人にとどまりがちでした。共同開発中の SI エージェントは「長期記憶*」技術を核とし、既存のシステム資産や設計情報、業務に関する膨大な情報を短期間で解析・整理し、業務に重要なものを長期的に蓄積し続けることができます。

*長期記憶：大量かつ複雑な情報から業務に重要と判断したものを長期的に蓄積し続けられる、スパイスコードの AI 技術。通常の AI は一度に膨大な情報を扱いきれず、対話の一貫性が保てなかったり、ハルシネーション（虚偽回答）が起きやすくなったりするが、長期記憶はこれらの課題を解消し、基幹システム開発での全面的な活用が期待できる

SI エージェントを使った開発により、既存システムや業務の実態を早い段階で正確に把握し、開発のスピードと品質を高めながら、事業に必要なシステムを構築できるようになります。さらに、蓄積した知見を将来へ引き継ぐことで、経営や事業の変化に応じて柔軟にシステムを進化させ続けられる開発を目指します。

■ 今後の展開：実案件でのパイロット展開から、顧客と共に開発する伴走型サービスへ

新体制のもと、実案件での活用などを通じて SI エージェントのさらなる品質検証と機能拡張を進め、大規模案件でのパイロット展開の早期実施につなげます。同時に、SI 事業全体の対応力を高め、プロジェクトの幅と供給能力の向上を図ります。

将来的には、SI エージェントを顧客自身も使える形に磨き上げたうえで、顧客が主体的にシステム開発を進め、JBCC のエンジニアが伴走支援する、月額課金型のストックサービスへの発展を目指します。これは、JBCC グループが掲げる AI サービスモデルを、システム開発の領域で具体化する取り組みです。これらの取り組みを通じて、既存システムによるビジネス制約からの脱却を支援し、顧客の事業成果を最速で実現していきます。

■ 関連情報

- ・スパイスコードと業務提携し長期記憶による「SI エージェント」を共同開発（2026 年 7 月 31 日発表）

<https://www.jbcc.co.jp/news/2026/07/31/113000.html>

- ・お客様の変革を AI で実現し、定着まで支える AI サービスモデル構想（2026 年 4 月 7 日発表）

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/9889/tdnet/2787621/00.pdf>

■ JBCC 株式会社について <https://www.jbcc.co.jp/>

企業の DX・AX を実現する IT サービス企業。マルチクラウド環境に対応したクラウド、セキュリティのサービスと、「JB アジャイル」による基幹システムの超高速開発を特長とし、AI など最新のテクノロジーを活用してお客様の変革を構想から実装、現場定着まで伴走していきます。JBCC 株式会社は、JBCC ホールディングス株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：東上 征司）の事業会社です。

<本件に関するお問い合わせ>

JBCC ホールディングス株式会社 広報 長谷川/加藤

Tel: 03-6262-3233 E-mail: jb_info@jbcc.co.jp